
布団ごと

ぬたろう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

布団ごと

【Nコード】

N1354Q

【作者名】

ぬたろう

【あらすじ】

私、少し腐ってます。

いえ、生もの的には腐ってませんが、残念な感じになっています。

そんな私も、掛け布団をマントに異世界↑？にて頑張ってみます。

何が出るかはわかりませんが、あの太陽はどっちがみぎ？ひだり？気になります。

(・ 3 ・)

「…なにこれ？」

ラノベ的、ありきたりな話…かもしれないが、今自分どこにいるのかわかりません。

動く事の出来ないまま周りを見してみる。

鬱蒼としげる木々、少し湿った土。そして、見たことの無い色をした、サンサンと輝く太陽が二つ。

太陽がふたつ？

ふぁんたじい？

なにこれ？ファンタジー？なんだろうか？

今年25になり、仕事もしてないニートな私が異世界トリップ？

それともなにか？知らぬ間に腐女子から貴腐人にクラスチェンジしてた、私にご褒美ひゃっほいの？

「ありえない。そんなドリームが許されるのは十代までって決まってるんだから」

自分に言い聞かせてみたが、現実が変わりはしない。

昨夜の記憶を呼び覚ます。

確かに布団で寝ていた、目が覚めたら森。

布団ごとトリップしていたため、夢と勘違いしつつ二度寝に決め込んで寝てみたが、変わらない。
何度見ても、森。

「つー事は白馬に乗った王子様でもくんのかねえ？」

それとも非力な私は獣に対して死亡フラグたってる？

今のところ見た感じ、チートな訳もなく、肉食な奴らに襲われたら確実に召される。

ただ、二度寝をしていても肉食獣に襲われることなく、目覚めることが出来た。

運が良かったのかも知れないがどうなんだ？

「呼ばれた系なら、魔法使いとかいないのかな？或いは、魔王？かみさま？」

周りの景色は何一つ変化無し。

このままじっとしていても、先程危惧したこともある。
何処か安全な所に移動しなければ。

仕方無しに布団を畳み、全てを運ぶのは無理と判断し、一番軽い掛け布団をパジャマの上から羽織る。

「白いでっかい狼が喋ったりしないかな」

夢見がちな25歳の一言である。

話が進みません。

「やっと…着いた」

先程の場所を森…と呼んでよいのか分からないが、およそ二時間位で、草原の様な拓けた所になんとか着いた。

昔、近くに居た婆ちゃんに森で迷子になったら沢を探るか、獣道を探せと言われたのが役にたった。

途中、うさぎのような耳をした猪？に目の前を横断された位の、危険に遭遇。

あまりの事に固まった私に、フンフンと鼻を寄せたが、危険はそのまま去って行った。

そんなこんなで、着きました。

「誰も迎えにきてる、感じは無いなあ…」

見渡した所であるのは、前面に原っぱな草原。後ろは森。人らしい影は無い。

「どうする？自分？お腹減ったし、現代人でしか無い自分に何が出るよ？」

既に、森を歩き続けた足はふくらはぎがパンパンだ。

何度か、背中に纏った掛け布団を座布団がわりに休憩したが、口にしたのは動物が飲んでいた沢の水のみ。
少々、安全面に不安があるが、背に腹はかえられない。

ぐうう

「あー…お腹減った」

その場にしゃがみ込み考える。

普通のトリップなら居るお迎えが無いって事は、これは放置型のトリップかあ…

何処かに優しいイケメソいかなあ。フツメンと一緒になら、なおの事良し。

私が愛のキューピッドになってやんよ！ふひよひやひよ！

「…とりあえず、歩こう。人間がいるか確認しよう」

神様居るなら、私に合いの手…違う、愛の手を！

合いの手

はい、ありがとうございます。

神様！とか言ってみただけど、これが愛の手ですか？
今まで都合の良いときだけ、神頼みしてました。

神の助け！

イケメソ発見！
勝ち組！

歩き続けて、周りは草原。と、変化がなく今日は野宿の可能性が…
なんて思い始めていたが、人間発見しました。

そして捕獲される私。

あれ？

助けに来たんじゃないの？

「言葉わかります？私、危険じゃありませんよ？人間、人間です。
アイアムピーぷる」

心許ない英語力と、両手を上に上げ、身振り手振りで対応してみる

が、腕から足までをグルグル巻にされる私。
布団ごと巻かれているせいか、痛くは無いが。

しかし、この状態で待っている未来は、平和であるはずが無いに決まっている。

自由に動くのは口のみ。

「ちょっと、女子をグルグルに巻くなんて、いくらイケメンでも駄目だと思う！イケメンだからってなんでも許されるとか思うんじゃないぞ！」

どんなに喚こうと、やつの動きは止まらず、上から下までしつかりと巻かれた。

その間、男は一言も話さず、無言のまま。
イケメン

はらりと耳から落ちる黒髪がなんとも色っぽい。

よく見ると、目の色が新緑の様な明るい緑。鼻筋も通っていて、日本人顔ではない。

ううん、どうみてもイケメン。きっと無口な大型ワンコ攻め。じゅるり。

「って違う！そうじゃない。私はただの、しがない25歳独身、名前かわかみは川上やしお八汐、性別女の子なちよっぴり腐ってるだけだってば！なぜにこの対応？！悪いことはしてない、善良な一般人だし、人違いです！」

日本語が通じてるのか分からないまま、奴に言い続ける。

ちらり、ところちらを見たがすぐに視線はそらされ、八汐は荷物のように、持ち上げられた。

「に、人間なら言葉をはなせ！」

つづき

担がれた私は、お腹に食い込み痛みを発する男の肩、意外に心地好い揺れに意識が薄れていった。

「あ！おはようございます！」

「あ？」

目覚めた私の目の前には、マロンブラウンが一番に目に入り、何かと思えばベリーショートの青年がいた。
身じろぐと、私の体に巻かれていた紐は無くなっていた。

ここはどこ？

ぼんやりと目の前の青年を見ると、黒髪のイケメンとは系統がちがう、目元が優しげなフツメン。
小動物の様にみえるが、意外に身長は高い。

今度はイケメンじゃないのか。残念。

まだこの人を含め、2人しか会った事無いが、この世界の人は身長高いのか…？

18：190位？流石に2mはないと思うが。

160ぎりぎりの自分だと、きっと見上げて首が痛くなる体験が出来るだろう。

「あの、大丈夫…ですか？」

黙ってしまった私に、再度問いかけてくる青年。

「大丈夫…です。ここはどこですか？」

あと、黒髪イケメンはどこですか？さっきの件で一発ぶん殴りたいんですけど。ん？あと、日本語通じてるな。異世界補正がかかっているのか？

「良かったあ…いきなりラルフが…あ、黒髪の連れなんですけど、貴女を抱えて帰って来たので驚いてしまって…。今、お水持ってきますね」

青年は立ち上がりカーテンを避け、席を外した。
遠くでカチャカチャと音がする。

あー…話を整理しよう。

掛け布団よーし、パジャマよーし。

なになに。黒髪イケメンがラルフで、私は連れられてきた。

それで、今の彼はラルフの連れ…やだ、どうしよう。

ふたりはプリキュ…じゃない、カップルなのか?!

連れとか言っちゃうなんて!

うひ! 異世界で!!

美形×平凡!

補正が入っているのか、言葉通じるみたいだし。

ラルフって奴は気に入らないが、彼は優しそうだしパーラダーイスになるんじゃない。

まてよ?

でも、それが普通の場合もあるよなー。もほもほしてるのが。

「帰ってきたら聞いてみようかな。はあ、なんか安心したら眠い…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1354q/>

布団ごと

2011年1月16日05時47分発行